

第3回総社市自死対策本部会議【議事概要】

1 開会

(副本部長)

ただいまから、第3回総社市自死対策本部会議を開催いたします。開会にあたりまして、本部長である片岡聡一総社市長がご挨拶申し上げます。

2 本部長挨拶

(本部長)

今日はお集まりいただきありがとうございます。何回かフライングして死のうとした人をリサーチして温かい心を送り込むとか何かできることがあるだろうと思います。皆が知恵を出し合って、自殺がない少ない社会を作っていくとイケない。今日はぜひいろんな知恵を授けていただきたいと思います。

3 会議等の名称変更について

(副本部長)

それでは、次第にありますとおり、会議等の名称の変更についてご提案をさせていただきます。健康づくり課尾崎課長からご説明をさせていただきます。

(健康づくり課長)

自死対策本部会議は23年の12月から設置されており、一番最初の時から自死という言葉を使っております。島根県や鳥取県も自死という言葉を使っており、全国的にその割合が70～80パーセントくらいになります。国は自殺対策基本法を制定しており、法では自殺という言葉を使っておりますが、遺族や遺児の方に対しては感情を配慮して自死という言葉を使っているのが現状のようです。

総社市としては、今後一般的には自殺という言葉を使わせていただきたいと思います。遺族の方や遺児の方に配慮する特段の事情がある場合には自死という言葉を使わせていただくと、そういうことでいわゆる使い分けをさせていただこうかと思っております。

今回の自死対策本部会議あるいは自死対策という言葉は、今後は自殺対策と言い換えたいと思っております。

(副本部長)

課長からいろいろ説明ありましたが、自死という言葉は一般に浸透していないと思います。よって自死という言葉聞いて、何を指すのか市民に直感的にご理解いただけない。啓発をするに際してもあまりピンとこないのかなという気がしております。法令においても自殺という言葉を使っておりますので、この自死対策本部会議も自殺対策本部会議と改めたいと思います。ご意見がなければそのとおりさせていただきますがよろしいでしょうか。

(異議なし)

4 協議事項 1) 自殺ゼロ作戦の取組みの成果と課題

(副本部長)

続きまして協議事項に移りたいと思います。資料につけておりますとおり、昨年度の本部会議におきまして自殺ゼロ作戦というものを決定させていただきました。この一年間各課においてこのゼロ作戦に基づいて取組みを進めてまいりましたので、その成果と課題についてそれぞれ担当課から順次発表をさせていただきたいと思います。発表しました後にご参加の皆さまから意見交換ということでご意見をいただければ幸いです。10課ございますので各課2分弱でお願い致します。時間を厳守していただければ幸いです。では健康づくり課の尾崎課長からお願いします。

(説明：資料1・資料4)

(副本部長)

この時点でご質問・ご意見等ございますでしょうか。

(寺島委員)

薬物に関しては、お薬手帳によって服薬内容を確実に把握するよう努めており、薬の重複投与がないようにしています。ただ中には悪質といいますかカラーコピーの処方箋を持ってきてだまされているケースもあるので、これからは気をつけていきたいなと思います。

(徳山委員)

すみません一言言葉の意味を教えてくださいたいのですが学校教育課の中にあるだれもが行きたくなる学校づくりの中にある「品格教育」はどういうことを指しておられるのか教えてください。

(学校教育課長)

思いやりを身につけさせたいとか感謝とか挨拶とか、子供達に身につけさせたいものを保護者にアンケートを取りまして、月ごとにテーマとして設定し、それにちなんだ取組みを各学校・幼稚園等で展開していくということで、子供たちに身につけてほしい品性・品格を強化していく、習慣づけていく、そういうふうな取組みでございます。ポスターなどを作りまして学校とか地域とかに貼らせていただいて家庭とも連携を取りながらやっていっています。例えば4月は挨拶、5月は思いやり、というふうなテーマで、月の初めには校長先生が朝礼でそのテーマにちなんだお話をされて各学級で道徳の時間にはそのテーマにちなんだ学習をして子供たちが自分で例えば思いやりなら思いやりで今月自分はこういうことを頑張ろうかなとめあてを立てさせて週の終わりや月の終わりには振り返らせています。人と人が関わりながら生活している中ですので、規範を育てていく、そういった取組みです。

(寺島委員)

先ほど学校教育課からお話がありましたが、今、スマホやラインを使った見えないところでのいじめが非常に問題になっていると思うんです。PTAを含めた上での指導というのはなされていますか。

(学校教育課長)

その1つの手立てがいじめ問題対策協議会のところに書いてありますように、冊子「いじめをなくすために」を20年前くらいから作っていて4年ごとぐらいに改訂・更新していています。前回と今回の改訂ではインターネットや携帯電話やスマホに関わるトラブルの事例を取り上げて、こういうことにならないように、どういことをそれぞれの立場の人が考えるべきか、家庭でどういことを子供にルールづくりをさせるか、そのあたりを啓発させる資料を作っています。それから実態把握で今年度子供たちにスマホ所有率とか家庭のほうでどういふうに使わせるルールを作っているか、実態把握のアンケート調査をしています。それがまとまって集計結果が出ましたら、それを基にした手だてを各学校でうっていかうかと思っています。それはそれでするんですが、もう5・6年前からは毎年のように大体どこの学校も保護者を啓発するための研修会を行ったり、子供たちに対するスマホや携帯を使ったモラルの問題を教える授業を取り入れてあります。

(本部長)

この日本の教育制度が4月1日からガラリと変わりました、4月1日から自治体の長、つまり市町村長が教育行政に大きく責任と関与を持つことになります。ここで何が起るかということですが政治家が教育に強く関与をするということになります。総合教育会議を立ち上げ首長が教育大綱というものを作ってね、市民に選ばれた市長が子供の教育に責任を負うというしくみに変わります。そこで一番大事なことはどうい子を育てていくかというテーマです。私はやっぱり人の心の痛みが分かる郷土愛を持つ優しい子いい子そういう子供を育てていくということを総社市の大目標にしていきたいと思っています。それをやれば、結果的に学力はついていきます。その中で最も大事なものはやっぱり道徳です。道徳というのは何ぞやというと人間関係を作る道具です。道徳とはよりよい人間関係を作る武器です。道徳をこれからの総社市の教育の最も大事な部分だというふうにとらえて、道徳教育を活かして自殺に繋がらないようにしていくということがこれからの教育のテーマだなというふうに思います。ほとんどの子が総社の子はいい子ですよ。すごくいい素質を持った子がいっぱいいますけれども、その特徴をさらに伸ばして個性をさらに伸ばすという教育のスタイルにしていこうということでお二方のご質問に答えおきたいと思っています。

(寺島委員)

国の方も道徳教育は難しいとはっきり言っていますね。

(本部長)

心を育てる、人間として人格を作るということを優先したら、結果的に成績はグッと良くなってくる、それでいいと思うんですよ。学校現場を見ていて、点数が何番目みたいなのばかりなのは寂しいです。もうちょっと違う人の育て方があると思うんですけどね。

(寺島委員)

発達障害に対する総社市の施策についてはかなり進歩しているようですが、今のご時世、次から次へと考えられないような事例が勃発しています。今の歪んだ社会構造や格差もあるんだろうけど、偏差値

教育が過ぎたところにもつながっていると思います。

(本部長)

そうですね。今課長が説明した「だれ行き」。あれは結構成果を出していて海外から視察に来るんですよ。この間は韓国で前は台湾でしたね。あ、香港か。それで小学生全体に占める発達障害の子の割合が中学校になると減っていくんですよ。治っているということではなく発達障害の子たちが社会に順化する、障がいバリアを感じなくしていく、というのを結構やってる。

(副本部長)

協議事項の1)は以上です。各課説明でした。私からのコメントですけど、これゼロ作戦はしっかり進んだかという観点で評価をすべきと思うんですけど、正直ゼロ作戦のそれぞれの項目がどれくらい進んだのかこの資料では分からない。各課が各課でいつも通りやっていることを各課のやり方で書いていただけでは作戦があろうがなかろうが関係ないと思うんです。そこを取りまとめ課は考えて評価してもらいたいんじゃないでしょうか。

4 協議事項 2) 自殺未遂者ケアサポート事業について(資料5)

2)の自殺未遂者ケアサポート事業は、自殺ゼロ作戦の最後の「未遂者及び遺族支援」における具体的な取り組みです。これを来年度やっていきたいと考えております。資料5です。自殺に至って命を落としてしまう方は、未遂歴がある割合が多いという状況になっております。要は未遂を何回も繰り返して最後に命を失うに至っている方が多いということで、未遂者の更なる自殺行為を防いでいくことが効果の高い予防につながると思っております。具体的には救急病院・消防署・警察署などの連携によりまして自殺未遂者の情報が入った時に、本人あるいは家族の同意を得た上で早期に介入をして自殺を防いでいきたい、アプローチをしていきたいと思っております。まずは地域医療連携ネットワーク会議というものを別途吉備医師会や市外の病院の方たちと開催をしているんですが、2月19日にその会議がありますので、そこでこの事業に関する議論を行った上で、夏ごろに、この件を含めた協定を各病院間と締結したいというふうに思っております。資料の最後にフローチャートが書いてありますけども救急搬送をスタートとして医療機関に運ばれましたらそこで市への情報提供について同意を取っていただく、情報提供を健康づくり課、あるいは相談を受けた課など関係各課で受けまして、退院カンファレンスなどに同席させていただき、その後相談を受けた課が関係課や専門機関を招集してケース会議を行うということになっております。ケース会議をした上で対象者一人一人に応じてとるべき支援というのが分かってくると思うのですが、面接・訪問等による状況把握のほか、必要に応じて専門機関等の助けも借りながら支援を行いたいと思っております。滋賀県の彦根市なんかは市民病院があるんですけど、そういうところは市民病院から情報を得て未遂者に保健師が訪ねてアプローチをしたりということをやっているようでして、すでに未遂者対策をしっかりとやっている自治体もあります。こちらには市民病院はないのですが民間と協定を結んでやっていきたいと考えているところでございます。これにつきましてご意見等ご質問いただければ幸いです。

(寺島委員)

この件につきましては吉備医師会でも先般の理事会で救急告示病院についてはやりとげることが確認されています。

(副本部長)

ありがとうございます。警察のほうからは、この事業を始めるにあたって何かご助言ありますでしょうか。

(助言者：総社警察署生活安全課長)

警察で自殺を取り扱うというのは深夜の電話です。どこも受けてくれるところがない、市役所かけても当直しか出ない、聞いてくれるのは警察だけだということで警察へかかってきて長々とずーっと話して何時間か話した最後に死にたいとポツツと言う。たまにあるんですけどもそういったときに警察としてもどこへ連絡すればいいのかわからない状態ですので、とりあえずいのちの電話を紹介するというような状態です。相手も名前とか電話番号も言いませんから、電話番号を教示するしか方法がないのかなと思っております。あと110番が入って現場へ行ってみたら自殺未遂をしていたというふうなこともあるんですが、そういったのはほんとに自殺をしたくて自殺していたのではなくて、自分の会いたい人に会えないから自殺すれば警察が連絡してくれるだろう、自分の目的の人に会えるという違う目的があったり、あとは犯罪が今まで成功していたのにバレてしまった。だからそれを苦にして自殺したい、死にたいと言ってみたりとかそういうふうなケースはあるんですが、それは本当の自殺とは違うのかなと思っておりますので、そういったものは違う事案で済ませております。また自殺企図者が行方不明者の場合があります。自殺企図者を発見したとき、本人にはまだ話ができる状態じゃないにしてもご家族の方に市の方でこういう取り組みをしているからここへ相談してごらんというアドバイスを警察としてできればいいなと思っております。

(副本部長)

出せない情報もあろうかと思いますが、このケアサポート事業を進めるにあたって警察ともどういった情報の交換・提供を行えるかということについて、事務的に調整をさせていただければと思います。他になにかございますか。

(徳山委員)

先ほどあった介護保険課の事例は、このケアサポート事業にのってくる対象になりえると思っていいかどうか。

(介護保険課長)

いいと思います。昨年度の話で、これにはまだ載せてないですけど。

(徳山委員)

未遂を発見してもそのあとの対応に苦慮しているということでスキルアップと、そのあたりについて

どっか一か所だけであたるということではなくてたくさんの部下あるいは関係者を集めてのケース検討ということでよろしくお願ひしたいと思ひます。以上です。

4 協議事項 3) 講話「自殺未遂者への対策」(資料6)

(副本部長)

お時間の方も進んできましたのでご意見をさらにいただきたいところなのですが、本日助言者として岡山県精神保健センター所長野口先生に来ていただいております。まさに来年度からケアサポート事業を始めると申し上げましたけれども、この自殺未遂者対策というものの重要性や方法などについて先生の方からご講話をお願ひしたいと思ひます。

(助言者 岡山県精神保健福祉センター所長)

最初に15分ぐらいお話させていただき、最後に県の自殺予防センターのご紹介を5分ほどさせていただきたいと思っております。復習だと思ひて聞ひていただきたいのですが自殺予防というのは日ごろの関わりの積み重ねであるということ、それからリスクは、よく言われるように、孤立感、不信感とかですね。特に高齢の方の場合体が思うように動かない、他人の人の迷惑になっている、仕事がない、こういったものが関係してくる。未遂者の事業は、非常に大事なことと思ひます。

あとはいろんな方々の気づき、気づいて繋がって見守っていくというのが大事。自殺は大体精神的ストレスがかかっている方1万人に1~2人程度いまして、自殺企図とされる方がその10倍20倍います。よく言われているうつ病が1万人の内500人から1000人。うつの方でも自殺される方は非常に少ない。このあたりが的を絞りにくいようになっています。亡くなった方には色んな問題が関わっているというおり、実際亡くなられるまでに平均して5年ぐらい。その間にいろんな問題が重なりながら負の循環スパイラルを描きながら自殺に追い込むということでおそらく自殺未遂はこの時期に起こってくるんだと思ひます。

さまざまな問題がすでに重なっているのです、医療的な治療だけではなかなか難しいのが分かります。これをどう打ち切るかというところなんです。自殺というのは社会から孤立したり病氣したり雇用の問題が不安定だったり、いろんなストレスがかかってきています。最終的に引き金になっているのがアルコールだったり薬物だったり、睡眠薬・精神薬なんかでもうろうとしたところで既遂したというそういうふうなことが多いというふうに言われております。

非常に多くの方がうつ病予備軍になるんですが、実際に精神科にかかるのは非常に少ないと言われる現状があります。一般科にかかる5%から10%の方がうつ病と診断されるのですが、なかなか精神科には受診しにくく、ハードルが高いというところがある。医師会の先生方の負担が大きいと思ひれます。もちろん医学的な治療も大事ですが、多重債務の問題・生活保護とか色々な問題があって、我々もこの方をどう支援していったらいいのだろうかと病院で悩むことが多くて、たくさんの方の支援が大事だというふうにも身をもって感じているところなんです。

若い女性の未遂歴が多く高齢者では未遂歴が少なくなってきました。逆にいいますと40・50・60・70代の方々は既遂の方が多いので、一発で亡くなられるということですね。若い方はなかなか亡くならないのかもしれないけど未遂を繰り返しているからといって安全だとは限りません。それは私も身をもって経験しましたが未遂を繰り返すうちに言ってみれば死へのリハーサルをしていっている訳ですね。それによってなかなか死ねないんだけど繰り返す内に、事故、またはいよいよ決意してそういう形で亡くなる方が多い。

失業率と自殺率は非常に似たような動きをしており、雇用との連携が大事である。雇用を確保するのが大事であるというのがこういうところからも見てとれます。あと生活保護受給者の自殺率は非常に高いですね。大体平均と比べると生活保護受給者が4倍5倍ですよ。やはり生活保護受給者の自殺は注意が必要です。私も実際そういうケースを経験しました。

こういう現状を受けまして国で2つ大きい研究をされました。1つはNOCOMIT-J。地域での自殺予防をやろう、検証しようというものです。1つは住民全体へのアプローチをする、そしてハイリスクの方のアプローチこれは未遂者に対してになると思います。それから遺族の方へのアプローチということで3つをやっているということ。地方自治体としてはリーダーシップをとるということをやっている、まさにこの総社市でやられているそのものだと思います。

組織横断的な連携体制、一般の住民の方の普及啓発とゲートキーパー養成、ハイリスク者へのサポートということをやってみてどうだったかという研究で、かなり多くの市町村の人たちを巻き込んで行われています。やってみたところ地方では自殺企図者が男性で39%高齢者でも35%に減ったということです。地方ではこういうのをやったらいいよっていうのができているんですけど、大都市部ではなかなか周知が出来ない。例えば総社市のように市長がリーダーシップをとられて皆さんがそれでキッチリ動いていっているのは浸透しやすい。大都市ではなかなか難しいというのが影響しているというのが考えられ、研究でも確認されました。

今日は民生委員や愛育委員の方も来られているので、我々の調査したものを紹介します。地域の高齢者で死にたい気持ちを持っておられる方は10%で結構多いんです。そういう方に愛育委員さん民生委員さんが声をかけられる方法があるかなしかで見ただけだと声かけがあると死にたい気持ちが少なくなると答えられたのが3割ぐらいです。愛育委員さん民生委員さんの訪問があるというのは非常に大きいんだということですね。改めてみるとこういう方たちは非常に大事なはたらきをしているんだということです。

吉備中央町では実は継続でその結果どうなるか見ていたところ、介入地域ではいろんな行事に参加しようという方が増えたそうです。逆に特に介入していない地域では参加しようという人が減ってしまった。その結果、訪問がない地域では死にたい気持ちを持つ人が増えたんですが、介入したところでは特に増えなかったの、そういう訪問は重要だと思います。ただそういう訪問を増やすにも、行政が愛育委員さん民生委員さんの活動をサポートするのが大事だったり情報をどう提供するかが今後の課題にな

っておりますが、地域住民と行政機関の関係が重要であるということに間違いはないようです。

ACTION-Jという自殺未遂者をどうサポートするかの研究を行ってつい最近でたものなのですが、未遂を起こした時にその後地域の精神保健福祉士とかに繋げるというのをやってみたところ、自殺の再企図のリスクが20%減ったということです。1年後にははっきりしたデータはでなかったのですがそれでもやはり20%ぐらいは低くなっているということで、地域のいろんな支援が繋がるということが大事です。特に退院後は非常に自殺のリスクが高くなります。その分フォローアップは非常に大事で、医療に繋がれば大丈夫というわけでは決してなくて、医療+生活を組み立てるケースマネジメントというのですがそれが大事であるということで、行き辛さの解決ということが非常に大事であるということです。

これはおそらく未遂者支援に限らないということです。以上をまとめますと自殺対策は医療機関に繋がればいいものではない。これは何度も言われているところです。自殺リスクのある人は医療機関を受診しなかったり助けを求めにくいというところがあります。相談を受けたところが本人の訴えを受け止める。そういう意味合いで今日ここでお話いただいていることは非常に貴重な試みだなと思います。支援が途切れないように支援者同士で連絡を取り合うこと。それからいろんな経済・雇用・医療・福祉いろんな組み合わせがあるということですね。それを孤立を防ぐ組織づくりとかサポートする自治体としての体制づくりというのが大事であると言えそうだと思います。

自治体として市町村はリーダーシップが非常に貴重であるということで総社市の試みは大変心強いなと思います。相談でハイリスク者を適切に評価して支援に繋げるコーディネート、市町村内部での横の連絡が円滑に行われることこういったあたりが大事である。あともちろん内部だけじゃなくて外部とのいろいろな連携体制がいるというふうに思われます。また住民組織の育成も非常に大事だというふうに思います。

早口で申し訳ありませんがこういう活動はすでに総社市さんが気付いてやろうとしていることがほとんどだと思います。積極的にされている自治体はそんなに私も聞いたことはないのですが、ぜひ総社市の今後に活かしてもらいたいですし我々もぜひ応援させていただきたいと思います。我々も応援部隊としてはなんですけど自殺予防情報センターが県であります。それをぜひ紹介させていただいていろいろところで協力させていただければと思いますので宜しくお願いします。

(自殺予防情報センター)

自殺予防情報センターは平成22年精神保健福祉センター内に設置されました。情報提供・普及啓発を図るとともに相談支援のネットワーク構築、人材育成などを行っております。お手元に当センターのリーフレットとゲートキーパー手帳を配布しております。こちらをご覧くださいながらお話を聞いていただければと思います。孤立感とか絶望感、生きる価値がないという気持ちが死にたいという気持ちに変わっていく中で、生きたいという気持ちがあるかどうかを忘れてはいけないのではないかと考えております。

私どもも要請をいただきましたら、出向いてゲートキーパーになっていただくようお願いをしているところです。今日いらっしゃる民生委員さんたち愛育委員さんたちにもお世話になっております。ゲートキーパー手帳の中にあります、気づき・声かけ・傾聴・つなぎ・見守りということをととても大事にしていきたいというところがございます。またこの手帳をたくさんの皆さまに配りながら普及啓発を努めていきたいと思っております。

私ども自殺予防情報センターでは毎週火曜日と金曜日に自殺に関する相談を受けさせていただいております。状況に応じて直接相談や訪問などを行っておりますのですが、火曜日と金曜日という日が限られてしまいます。9時半～4時までの間お昼をちょっとお休みさせていただきますが、その時間にはしっかりお話を聞かせていただきますことを心がけております。自殺に傾きかけている方が少しでも安心して話をしていただけるようにしっかり目と耳と心で聞く傾聴に重きを置きまして自殺の危険度を判断しながら今後の方針を視野に入れ必要な支援を行う窓口に繋がられるようサポートしております。

状況を肯定させる策となる選択肢を増やしてもらうために多くの機関で支えていくことが必要だと感じております。今日はお話をいろいろ聞かせていただきました。とても力強い総社の皆さまをはじめ多くの機関と連携し幅のあるネットワークの構築を目指していきたいと思っております。また前後しますが、電話番号等々書いておりますのでこちらを皆様に周知していただけたら嬉しいと思っております。必要な方がないことが望ましいのですが、こういう機関があるので電話してみたらというふうに言っていただけたらと思います。

自殺のパネル等も貸し出していますのでご活用いただけたらと思います。一人でも多くの方が取り巻くご家族が悲しまれることがない岡山に皆様とともにしていきたいと存じます。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

(野口所長)

火・金となっていますが、他の曜日でもご相談をお受けしておりますのでどうぞご活用ください。

(副本部長)

これからの未遂対策に心強いとお言葉をいただきありがたい限りです。今までの説明、先生からのご講話をふまえて、残り時間で意見交換をできればと思います。こういうところが課題になるんじゃないか気をつけたほうがいいんじゃないかというところですか、あるいは先ほどの報告に対してわからないものがあればお答えしたいと思います。安本会長、民生委員さんとして活動されていて自殺未遂者あるいはそういう面慮を持たれているような方に触れたということはありませんでしょうか。

(安本委員)

民生委員の安本です。さっき10部署からの報告がありましたけども、それぞれがそれぞれの部署でということではなくて連携はなされているでしょうね。それと資料ですけど、市民にどのように伝えていくのか、すべての団体に学んでもらいたいと思っておりますがそこらへんどうですかね。もう一つ教育の件で

片岡市長、大変良い話なんですけど、私が子供のころ母親から「天知る・地知る・人が知る」ということを教わった。悪いことしちゃいかんよと。お天道様が見てるよと。それから土地と人が知る。こういう教育を学校でしていただきたいというふうに思います。以上です。

(副本部長)

ありがとうございます。連携については定期的に連絡会議を持つなどして対応をしているのですが、先ほど私のほうから言及したとおりまだ不十分だと思います。とくにゼロ作戦に書かれているとおり例えば税や各種料金の滞納があった場合には個別にそれを督促するのではなくて、多重債務者の方がいらっしやればいったん止めて全庁的に対応できるようにしていきたいというふうにも考えております。今後庁内の連携については今まで以上にきちっとやっていきたいと思っております。また相談マニュアルを配っておりますけども各課で相談を受けて終わりというだけでなく、例えば健康についてご相談に来られた方についても経済状況はどうか介護・子育てそういった生活のいろいろな面々で困ってないかどうかにしてもおせっかいをやしていきたい。また市民への周知ですけどもこちらの会議の資料については少なくともホームページに掲載したいと思っております。のちほどご了解をいただこうと思っておりますが、本日の本部会議の議事内容についても皆様の確認を取った上で公表したいと思っております。どうぞご了承いただければ幸いですと思っております。また「生きる」というパンフレットは、先ほど紹介もありましたし市役所トイレにも置いておりますけども、こちらに相談窓口とゼロ作戦の内容を出しておりますので、市としても市民の方への情報あるいは広報・啓発といったためには今までと同等それ以上に力を入れていきたいと思っております。また民生委員の会議に説明にも参りますし、広報媒体提供していきたいと思っておりますので、どうぞお心がけいただきたいと思いません。

(本部長)

来月号の市報に今日のこの会議を特集として出します。自殺予防情報センターの電話番号をホームページに載せてもいいですかね。これを広げていこうと。

(副本部長)

佐野局長、生活困窮者支援センターを7月以来立ち上げていただいています。これまであった相談で命の危険を感じるような事例がございましたか。

(佐野委員)

今年度からの生活困窮者支援センターを市から委託を受けまして専任職員をつけて事業をしております。今までも社協をやっていく中で、制度の狭間ですとか隙間におられてなかなか支援の届きにくい方がおられました。しかしそういった方へ十分支援のできる専任職員がいなかったというのがありました。このたび、生活困窮者支援センターを設置することによってそういう方に寄り添ってじっくりとお話を聞いたり一緒にハローワークに行ったり、履歴書を書いたり、明日の食事の心配を一緒にして食料を確保したりとかということをしていくことが出来ています。そういう相談を受けている方が今26人ほどいますが、その中には仕事がない、ひきこもっているといった方がおられます。そういった方に寄り添

うことによってだんだん明るい道、明るい兆しが見えてくるようになり、5人の方が仕事に就くことができました。総社は相談の窓口が民生委員さんとか福祉委員さんとかからが多いというのが特色です。民生委員さんとか福祉委員さんとかが地域の中で身近でそういった方の暮らしを把握され、優れた活動をされているおかげだと思います。その関係性を一緒に太くしていって取り組んでいきたいと思っています。総社市社協では福祉委員という制度が独自にあって現在579人の方がおられます。そういった方が各町内に1人という形で早期発見・早期対応ということの大きな窓口をしていただきたいと思っております。今後の感じるどころではやはりひきこもっておられる方が総社市内にどのくらいおられるのかが分かりません。実態把握して早く支援が行くように、また就労に結びつくためにいきなりはできませんから、中間的な就労とか居場所になるようなものをぜひ市と協力して作っていききたいと思っております。

(副本部長)

野口所長の講話の中でも雇用と自殺の関係が深いというお話がありましたが、総社の雇用の状況、ハローワーク来られて何度も面接されてもまだ就労に結び付かない、困難だという事例がまだどれくらい実感というか感想、あるいは自殺対策、雇用との関係で思われるところがあれば。

(平尾委員)

失業そのものが困られている状態です。ハローワーク総社は支援ルームで市の方とハローワークのスタッフで対応しているといいます。特に困られていらっしゃる方は、お仕事探しもそうですけど、市の方の支援を交えながら相談も含めてできる窓口を設置していただいているという、県下でも総社だけ。全国的にも珍しい設置です。総社でこの取り組みは先進的ですが、雇用が自殺の原因になるとひしひしと感じております。その窓口の支援ルームだけでなくハローワークに課せられている責任というのが重みを感じているというところです。

(副本部長)

有効求人倍率は高いと思うんですけど、今でも就労が困難な事例は多いですか。例えば障がいや外国の方以外、一般の方ですね。そういった方でもなかなか就職できないという傾向はあるんですか。

(平尾委員)

そうですね。よくミスマッチというふうにいわれるんですけど、確かに求人は頂いてる現状にあります。対してその求人に就職できる方ばかりかというところでもなく、やはり合っていない。求人情報もどう探していくかっていう課題を重ねている。まだまだミスマッチはあります。

(副本部長)

他にあと3分くらいですか、ありますか。

(本部長)

うちの職員で、倦怠感みたいな症状で、心療内科に行っていきなり抗うつ剤を処方されて、要休養2週間とか書いてあるのを見せられる。どうなんでしょうかね。

(野口所長)

仕事の上でのうつは結構難しいところがございまして、医療機関も職場の状況が十分把握できないところが非常に大きい。あと復職される場合にも、復職可という診断書が出ていても調整に非常に困るといところがあります。やはり職場とうまくいってないとコミュニケーションをとりながらやらないといけないかと思ひますし、そのコミュニケーションをとることであまく着地できる場合もありますし、なかなか本人さんの問題でそれは難しいです。あまり病気って言いすぎないことが大事かと。そのへんの判断は難しいところあると思ひます。

(本部長)

難しいですよ。

(副本部長)

ではそろそろ定刻が参りましたので、特になければ終了にしたいと思ひます。先ほども申しましたけど、今日の資料と議事概要の方はホームページの方に掲載をしたい。また市長の方からお話がありましたとおり、広報そうじやにも周知の為にも掲載をしたいと思ひます。では最後に本部長の市長から閉会のお言葉といただきたく思ひます。

(本部長)

今日は野口先生の方からお世辞をいろいろとただけて嬉しいなあと思ひましたけれども、ポイントは強い行政リーダーシップであろうと思ひますから、庁内的に工夫をしてみたいと思ひます。それで社会全体かもしれないが、市役所職員さんの癖というか縦割り社会、そこに横串を差し込むしくみをどうやっていくかという。イメージとしては4月から総合政策部を作るんですがその中に盛り込むかなと思ったり。そこがやればこの10人の内1人位減らせるかもしれないし、それを考えていこうと思ひます。それから、皆さんがたの協力を得ながらやって参りますがすでに我々がやっているシフト、障害者千人雇用も今833人までいっておりますが、さらに高めていく。残りは課題は見えているんですけど、精神障害者の方をどうしていくかテーマなんです。発達障害は今のところ障害には入っていないのでこれもどうやっていくかね。教育現場とそろえて。それから生活困窮者の待遇について、母子家庭の子供、特に力を入れて高校までは行かせようという教育の格差是正ということとさらに力を入れて、中卒にしないという高校に行かせるという我々のテーマでやっていきたいと思ひます。色んなことを合わせながら一生懸命やっていこうと思ひます。ご協力お願いしたいと思ひます。ありがとうございました。

(副本部長)

では、これもちまして第3回総社市自死対策本部会議を終了したいと思ひます。今日はありがとうございました。